

「こんなまちになれば良いな」という思いを、
みんなで語り合いました。



「まちの将来像」や「優先的に取組むべきこと」について、議論しました。

市では昨年12月より、本庄駅北口周辺のまちなかの「これから」を見据えた、市民ワークショップを開催しています。駅前をより良い空間にするだけでなく、住みやすく、賑わいあふれるまちなかを目指すため、様々な世代が集まって意見交換しています。

最終回となる第3回は、属性別（学生・移住・子育て・商業・年長者）にグループに分かれ、これまでの議論を踏まえて、「地区で優先的に取組むべきことや必要なインフラ整備は何か」について議論しました。そのうえで、「こんなまちになれば良いな」というまちの将来像のあり方について話し合いました。



これまでのワーク

第1回 | 強み・弱み分析

強み

弱み

第2回 | 「方向性」の抽出

人の
流れ

滞留
空間

見えてきた方向性(テーマ)

駅前

道路

居住
環境

にぎ
わい

みどり

今回のワーク

今まで出た意見を見渡して、

- ① 優先的に取組むべきことを「〇箇条」にまとめる
- ② 「こんなまちになれば良いな」という思いを、将来像としてまとめるに取組みました。

各グループの成果

A
班



「学生も利用しやすい本庄駅 ～欲しい！憩いの場と緑 everyday安全安心！！～」

- 一、憩いの場が欲しい！
- 一、通学路安全に！
- 一、夜も安心に！
- 一、緑がほしい！
- 一、バスに乗りやすくして欲しい

主な発表内容

- カフェ、スタバの様な憩いの場がほしい
- 誰もが安全・安心に通れる道路が必要
- 遅い時間は、街灯がなく暗いイメージだ
- 大きな公園を作り、学校のイベントを開催することで、多世代交流が生まれる
- バス通学や電車待ちの環境に配慮が必要

B
班



「西のウォークブル・ 東のモビリティ」

- 一、エリア分けを踏まえた空間作り
- 一、駅前を玄関からリビングへ
- 一、導路づくりを進めよう！

主な発表内容

- 東西に分けてまちの考え方を作ろう
→西は歩きを前提、東は車を位置づけ
- 駅前を玄関口ではなく「リビング」に
→駅前を滞留できる空間に位置づけ
- 「^{どうる}導路」づくりをすすめる
→「歩くのが当たり前」という概念へ！

C
班



「全ての世代が住みやすく 愛着が持てるまち 本庄」

- 一、歩行者が安全に歩ける動線
- 一、みんなが使いやすい公園づくり
- 一、公園と他施設との連携

主な発表内容

- 車社会の中でも安心して歩けるように
→歩道整備や電柱地中化を進めるべき
- 様々な世代が使いやすい、開かれた公園
→セントラルパークのような場所へ
- 様々な施設と公園が連携すべき
→子育て拠点や駐車場を確保すると良い

D
班



「本庄Base」

- 一、シンボル通り
- 一、駅前ににぎわいを創る
- 一、イベント・人を集める
- 一、路地・歴史的資源を活かす
- 一、空き店舗・空き家活用
- 一、住む人を増やす

主な発表内容

- “Base” = 基地 で、集約するということ
- 通りをひとつ決めて、そこへ商店や飲食店が集まる整備はどうか
- 定期的なイベントによるにぎわいづくり
- 商業エリアと住むエリアは分けるべき
- 歴史資源を活かすための制度作りは必要

E
班



（無題）

- 一、若者に任せる
- 一、弱者にやさしい
- 一、都内通勤等の居住促進
- 一、屋外サロンのなまちづくり
- 一、子育て

主な発表内容

- まちを見るときには過去・現在・未来という切り口で考える必要がある
- 駅前通り西側は安心のまちづくりが必要
→併せて稼ぐこと・活動も必要
- 広い切り口で考え、弱者にやさしいまちづくりを進めてほしい

これまで3回、本庄駅北の「これから」を見据えるため、熱く活発な議論をしてきました。頂いたご意見を基に、市では今後、本庄駅北の再整備のあり方を示す「基本方針」を検討していきます。

本ワークショップに関するお問合せはこちら

本庄市都市整備部 都市計画課 市街地整備係
 ●TEL: 0495-25-1138 ●FAX: 0495-24-0242
 ●E-mail: tosikei@city.honjo.lg.jp